



発行 令和2年 8月20日(木)
 発行人 郡山市小学校長会長 大和田正恵
 編集 郡山市小学校校長会 広報部

「前向きに考え続ける姿勢をもって」

郡山市小学校長会長 行健小学校 大和田 正恵

～説明責任を果たすために～

コロナ禍、新しい生活様式のもと、各学校では様々な配慮をして教育活動を推進している。教育委員会の指導を受け、次々に更新されるガイドライン、レベル1を踏まえながら、学校の実態に応じて校長が判断していく。判断数は例年に比べてはるかに多い。児童や保護者、教職員の実態と他校の情報を捉え、柱となる職員と話し合う。より良い判断のためだ。話し合いが深いほど判断理由は明確になる。今年度は特に職員や保護者への説明が重要だ。前向きに捉えれば腕の見せ所だが、柱



となる職員の知恵を借り、協力を得て舵取りをしている。同じ境遇の仲間にも叫びたい。「健康第一に、みんな頑張ろう！」

～次年度の働き方改革に向けて～

公立小学校の1クラス30人の状況を想像すると、個人差が大きく、一斉指導に個別指導を織り交ぜて教えていく。特に1年生の先生は1年間である程度まで一斉指導についてこられるようにするのだから凄い。

小学校の担任の先生たちは、次の日の活動を成立させるのにどれだけの想像力を働かせ、どれだけの準備をするのか、それには相当の時間が必要なのである。児童を帰してから退勤時まで、翌日の6校時分の準備をするの

は非常に難しい。そのため残業をする。先生という仕事の責任感がそうさせるのだ。スパッと改善はできないが、少しでも働きやすくなるように、そして子どもたちが生き生きと活動しながら成長を遂げられるように教育課程の改善を図りたい。今年度のコロナ禍の様々な見直しのうち、来年度も生かした方がよいものを見つけて、教育課程に組み込む検討をしようと思っている。

～今求められる先生、目指す学校～

学校の先生で、素晴らしいと評価される人は、どんな先生か考えてみた。

子どもからは、優しい先生、授業が面白い先生、難しいことを短い時間で分かりやすく教えてくれる先生。保護者からは、我が子をよく見てくれて、成長を知らせてくれる先生。課題がある場合は、良い方向に伸びるよう一緒に考えてくれる先生。学校現場からは、ICTを活用した学習に前向きな先生。子どものけんかや悪口陰口、仲間はずれに物隠し、押した押された転んだなど、生活安全上のトラブルを警察官や裁判官のような役目をこなしながら、見事に善悪を教えてくれる先生だ。

これら全てを満たすスーパー先生はなかなか見つからないと思うが、チームで目指すなら十分可能と思うのだ。

～私が思うスーパ-先生～

池上 彰先生 坂本金八先生
 鬼塚英吉先生 山口久美子先生
 工藤真一先生 米村伝治郎先生
 Steven Paul 先生